

トピック — 葉茎菜類の生産動向と野菜指定産地について —

加工・業務用も含めて需要が堅調な野菜のうち、今回は葉茎菜類のキャベツ、レタスについて、最近10年間（平成16年～25年）の生産動向を紹介する。

25年の作付面積は、キャベツは16年対比で3.0%増加して3万4千3百haとなつた。一方、レタスは2.3%減少して2万1千3百haとなつたが、22年（2万9百ha）以降は微増傾向である。

25年の出荷量は、キャベツは16年対比で16.0%増加して127万6千トンとなり、レタスも15.6%増加して54万7千1百トンとなり、いずれも大幅に生産が拡大した。

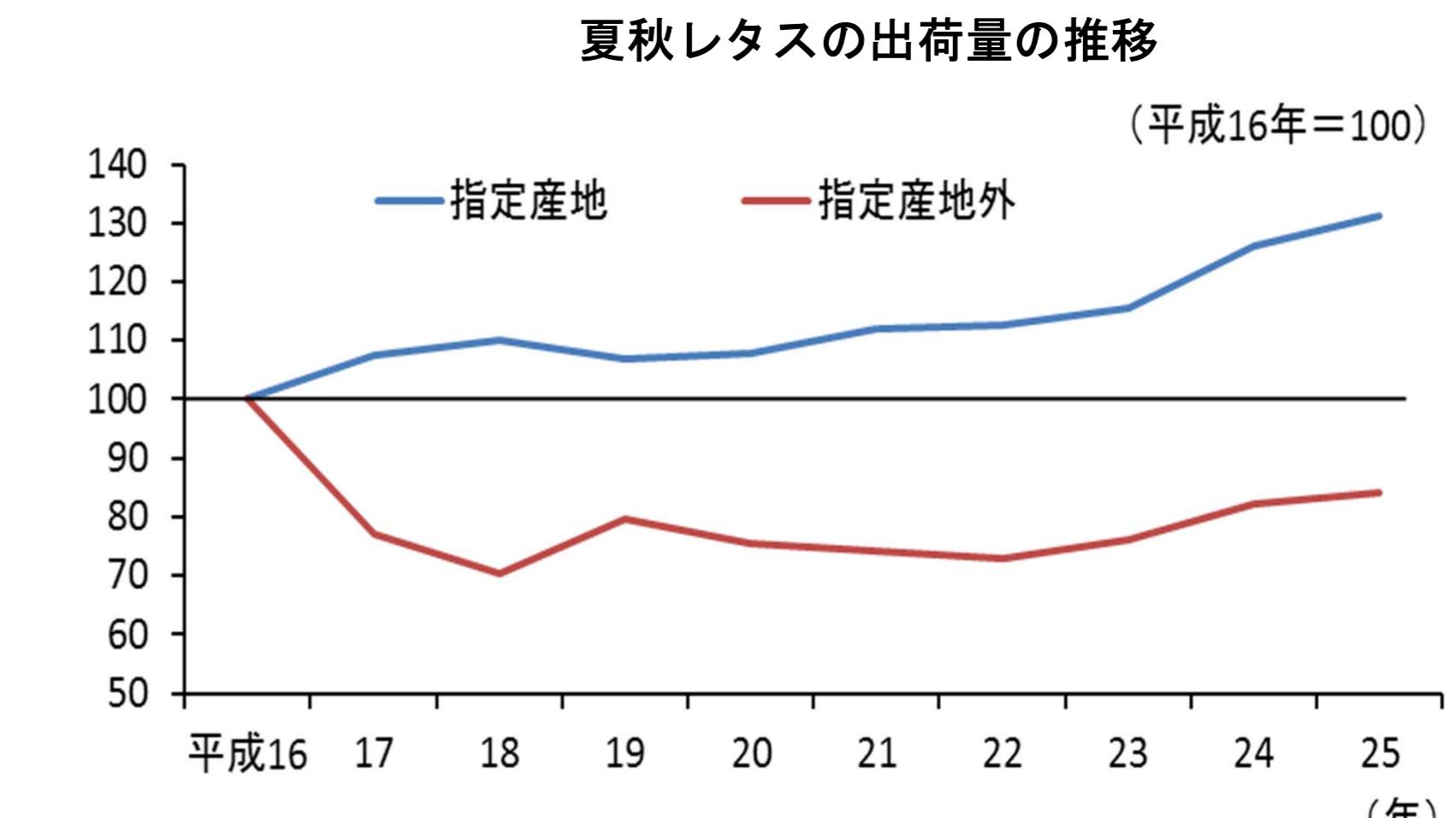
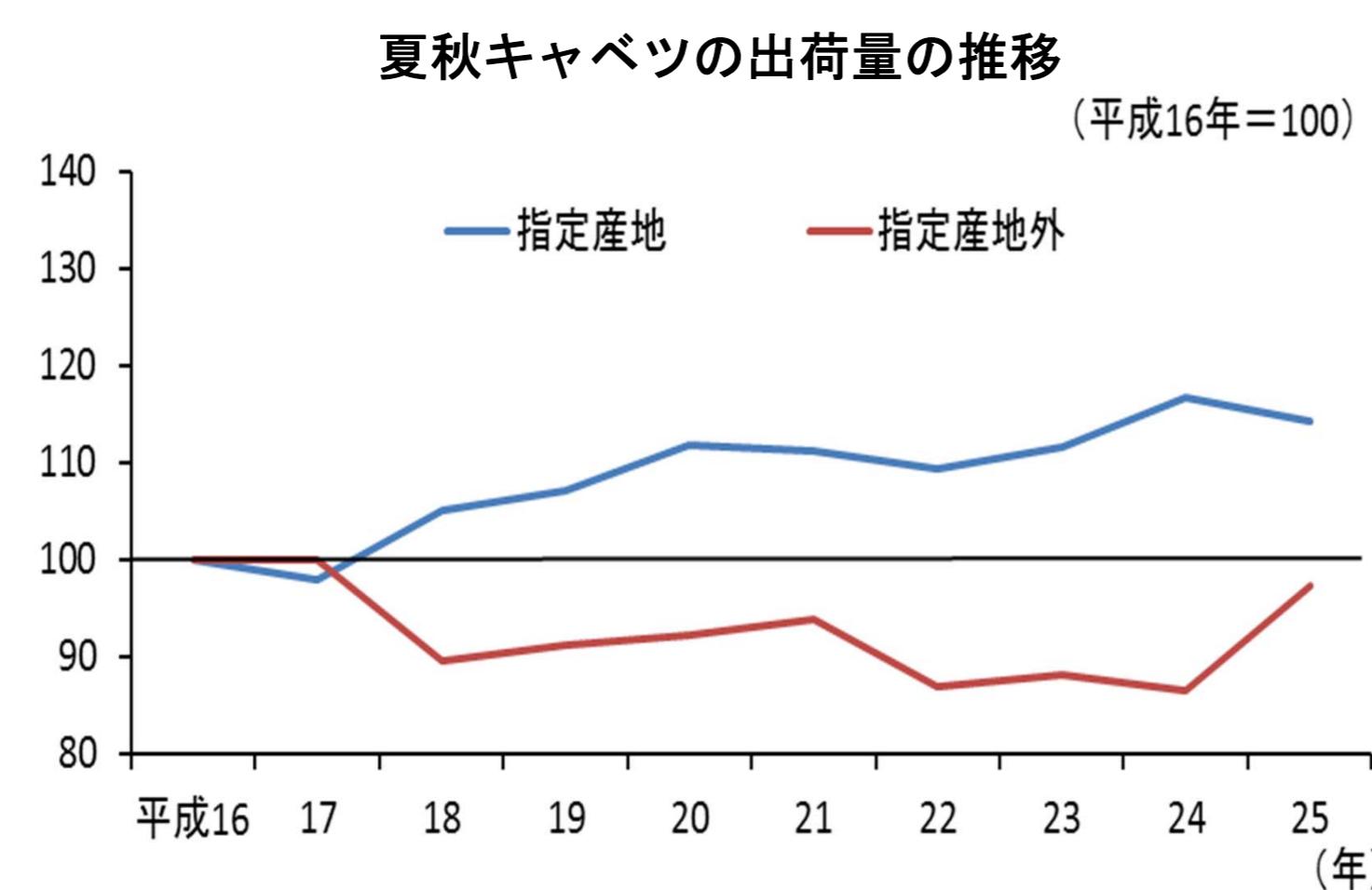
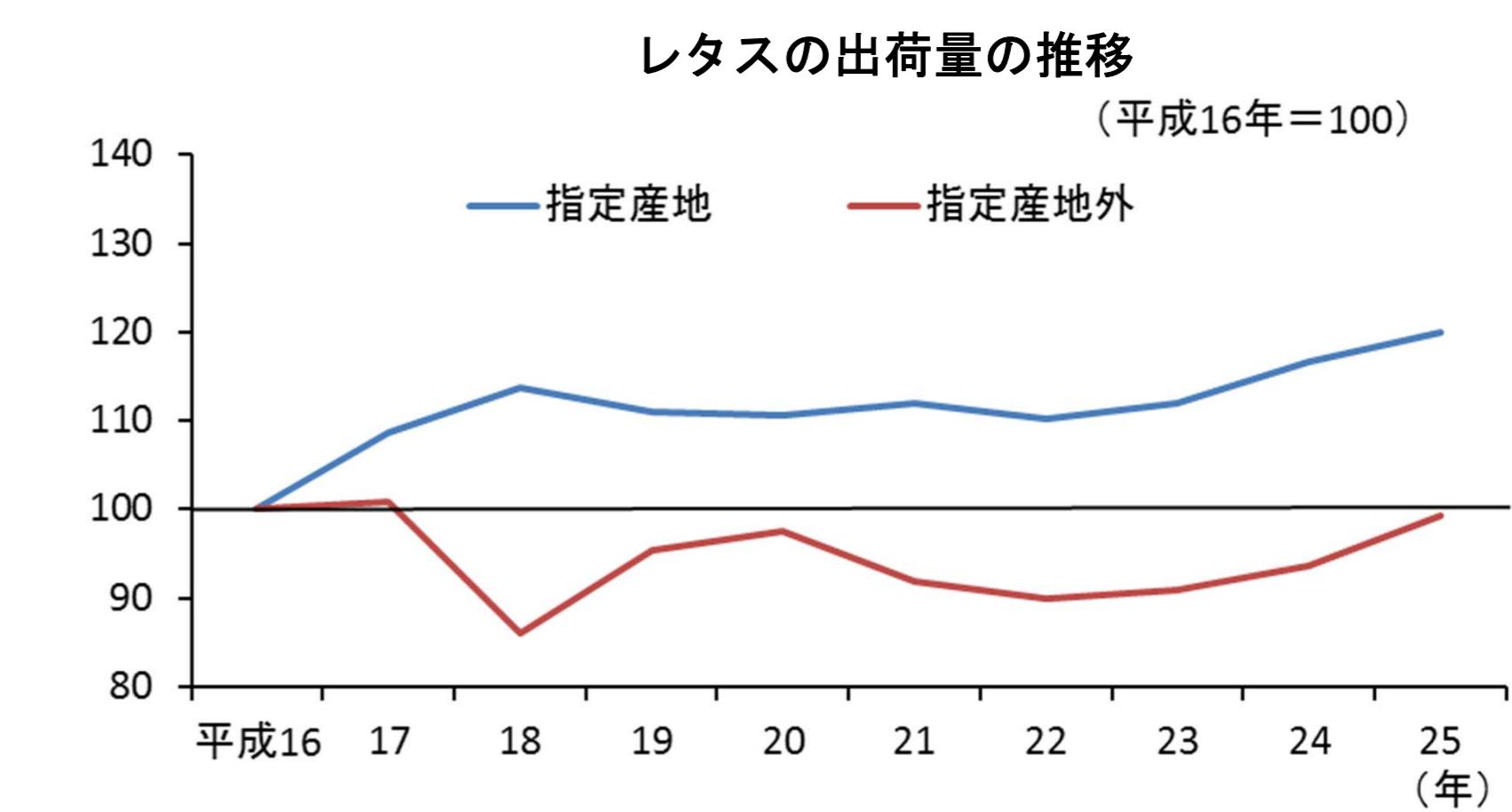
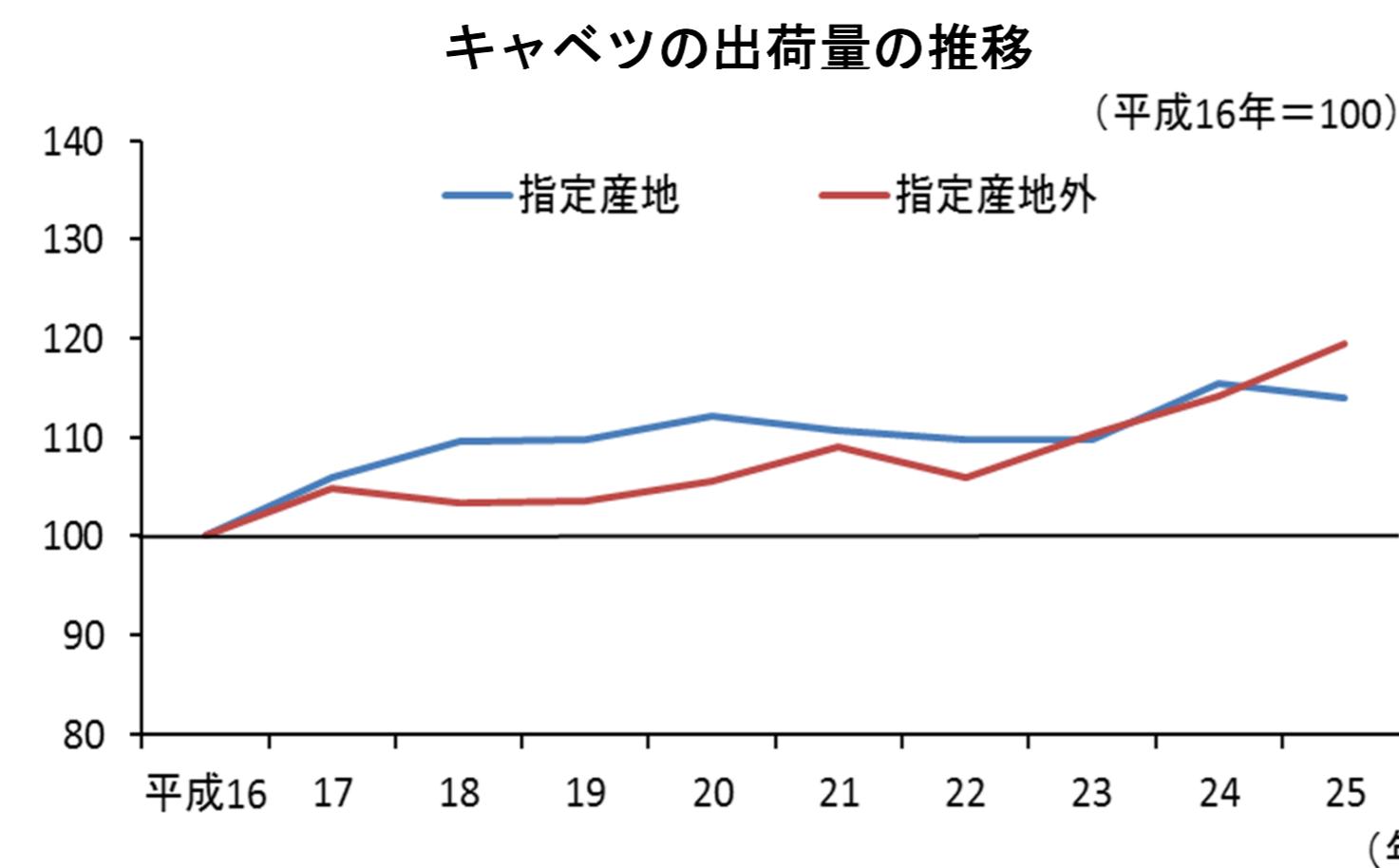
このような作付及び出荷の動向を、「指定産地」（当機構が実施する指定野菜価格安定事業の対象産地の市町村）と「指定産地外」の別で特徴をみてみる。

作付面積全体に占める指定産地のシェアを16年と25年で比較すると、キャベツ（16年：50.8%→25年：51.9%）、レタス（16年：73.9%→75.6%）いずれも増加がみられる。

また、同様に出荷量の推移（平成16年=100）を、指定産地、指定産地外の別にみると、キャベツは、指定産地、指定産地外とともに増加傾向がみられるが、これから出荷が本格化する夏秋キャベツでは特に指定産地で増加基調がみられる。さらに、レタスは、最近では指定産地の増加基調に加え、指定産地外でも回復基調がみられる。

昨年6月の本トピックの果菜類（トマト、きゅうり、ピーマン）の紹介では、指定産地の出荷量の相対的な安定性という特徴がみられたが、需要が堅調なキャベツ、レタスでは、特に指定産地での生産拡大傾向という特徴がみられる。指定産地では從来の家計消費向けはもとより、加工・業務用向けの取組を強化する地域も増えており、今後は、指定産地外の地域での取組強化とも合わせ、各々の需要に対応した安定供給の遂行が益々重要となっている。

（注：平成26年6月9日のトピックスはこちら→
http://vegetan.alic.go.jp/topix/260609_topic.pdf）



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

注：指定産地の数値は、指定産地が所在する市町村別の作付面積、出荷量を合計したものである。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。

※無断転載禁ず　・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。